

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：首都大学東京（総括責任者：原島 文雄）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

本学のダイバーシティ推進室に、女性研究者支援担当グループを設置し、コーディネーター、相談員、事務職員を新たに配置して支援事業の実施にあたる。

活動内容としては、①ダイバーシティ実現のための意識啓発と環境改善、②多様な生き方・働き方を実現できる制度計画、③多様性による新たな知の創造、の三つの柱を中心に、女性研究者の多様性に配慮した支援に取り組む。

(2) 研究を支援する者の配置計画

支援室の実施スタッフ 2 名、さらに研究支援員 20 名程度を雇用し、一定条件を充たした研究者の支援に配置する。また、事業終了後の企業・大学・研究機関などでのポストを得られるよう支援していく。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
S	a	a	s	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長の強いリーダーシップの下、女性研究者支援を機関の重要施策であるダイバーシティ推進の一環として位置付け学内のコンセンサスを得、学部・系毎に女性研究者雇用促進計画及び環境改善計画を具体的に策定し、女性限定教員公募の実施など実効性の高い取組を進めた。取組の成果として理学・工学系の女性教員の採用を確実に進め、目標の 30%を超える高い採用割合を達成したことは高く評価できる。女性教員割合も着実に増加しており、取組を継続、発展させることにより更なる成果が期待できる。

・**目標達成度**：女性教員比率が低い理系学部・系において、女性限定教員公募等のポジティブ・アクションの実施により、女性教員採用割合が目標の 30%を越えたことは評価できる。今後の取組の継続、発展により、女性教員を着実に増加させることを期待する。

・**取組**：女性研究者の採用促進、環境整備、裾野拡大、意識改革に積極的に取り組み、女性研究者のニーズに基づいた研究支援員制度の創設、祝日一時保育の実施、女子大学院生のキャリアパス支援を進めたことは評価できる。事業実施期間終了後は、男性研究者も研究支援員制度等を利用できるようにするなど、取組を拡充させている点も評価できる。

- ・**取組の成果（システム改革）**：学部・系毎に策定した女性研究者雇用促進計画、研究環境改善計画に沿って女性研究者支援・育成を推進することにより意識改革が格段に進み、女性教員比率が特に低い理系学部・系において女性教員の採用比率が大幅に上昇したことは高く評価できる。
- ・**実施体制**：ダイバーシティ推進室に女性研究者支援担当グループを設置し、女性研究者支援をダイバーシティ推進の一環として位置付けた。また、ダイバーシティ推進室を機関の基幹的委員会であるダイバーシティ推進委員会の下に設置し、女性研究者支援に係る取組を機関全体に効率的に展開したことは高く評価できる。
- ・**実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：学長が統括責任者となり、自主経費により予算を確保し、ダイバーシティ推進基本計画に基づき女性研究者支援の取組を今後も継続、発展させることを明確にしていることは、高く評価できる。女性教員割合は年度を追って着実に増加しており、今後も取組を継続、発展させることにより、女性教員割合の長期目標 20%を達成することを期待する。